

文芸漫談

SEASON 5

主催●舞台よろず相談所 K・企画



いとうせいこう × 奥泉光

作家・クリエイターとして活躍する「いとうせいこう」と、芥川賞作家であり大学教授の「奥泉光」が、文学作品を題材にし、笑いを盛り込み、二人で作品を語っていく、漫談形式のトークショーです。同様のトークショーのように、作品への理解を与えることにこそ違いはないのですが、そこに、博学がユーモアをまとうたような二人の「笑い」が入ることにより、お客さまの興味をより深いところまで誘い、「豊かな文学」になるのでは、との試みです。

夏目漱石『それから』

2020年
4月24日(金)

開場 19:00 開演 19:30

料金 前売2,500円 (全席指定)
当日2,800円

チケットのお問い合わせ

K・企画

TEL&FAX 03-3419-6318

HP <http://www.k-kikaku1996.com/work/bunman/>

E-mail bungei_4comic@k-kikaku1996.com

イープラス

HP <https://eplus.jp/>

チケットぴあ

TEL 0570-02-9999

HP <https://t.pia.jp> (PC・携帯共通)

(Pコード：644-813)



会場 北沢タウンホール

世田谷区北沢2-8-18 (TEL 03-5478-8006)

小田急線・京王井の頭線「下北沢駅」東口(中央口)下車徒歩5分





強調しておくが、我々コンビは笑いと同様、文学に対して
も真摯であり続けた。なにしろ「文芸漫談」というくらい
だ。文学をおろそかにしては成り立たない芸である。

普通、文学入門書は、「グングン文学がわかる」のが取り
柄だが、我々はグングンだけではどうも満足出来ない。理解
の速度も重要ではありながら、納得の瞬間ごとにクスクスと
笑いが生じないことには、文学の根幹が貧しくなってしまう
のではないかと我々コンビは心配しているのである。

豊かな文学、とよく人は言う。けれども、何がどう豊かだ
あるべきかを示す者はまれである。少なくとも我々は、文学
を語る事が同時に笑いを呼ぶという事徳を希求した。それ
こそ豊かさのあり得べき具体例だろうと考えたからに違いない。

(「文芸漫談 笑うブンガク入門」 いうせいこう氏 まえがきより)

【いうせいこう氏】

1961年、東京生まれ。早稲田大学法学部卒業。作家、クリエイター。
「ノーマライフキング」で小説家としてデビュー。最新小説に「小説禁止令
に賛同する」。主な作品に「想像ラジオ」「存在しない小説」「鼻に挟み
撃ち 他三編」。ノンフィクション・対談集に「国境なき医師団を見に行
く」「ラブという薬」「今夜、笑いの数を数えましょう」などがある。

HP <http://www.cubeinc.co.jp/ito/>

小説の書き方・読み方がクスクスわかる

ここ数年、書店を訪れると、「小説の書き方」といった類
の本がやたらと眼につくのは、小説を読みたい人より、小説
を書きたい人の方が多いという、時代の趨勢のなせる業なの
であろう。

実際に観客を前に話をしているときには、「入門書」を作
ろうとの狙いが殊更にあったわけではなく、とりあえず「小
説」なし「文学」を題材に、いとうさんと二人、お客さんの
反応を窺いつつ、あれこれ話すのが馬鹿に面白いので、機
会を捉えてはどんどん喋っただけの話である。

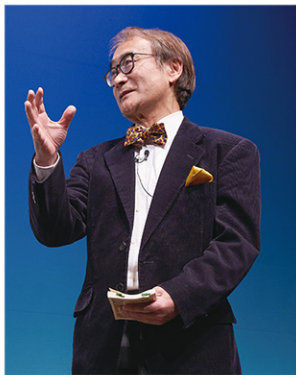
どちらにしても、面白いのは、やはりライブである。少な
くとも喋っている本人たちにとってはそうである。そして、
演じる者が楽しめないのでは、観客だって楽しくないとい
う、ジャズのセッションと同じ原則の下で「漫談」は行われ
た。だから、本書を読んで少しでも面白いと思って下さった
方は、是非ともライブにいらして欲しいと思います。

(「文芸漫談 笑うブンガク入門」 奥泉光氏 あとがきより)

【奥泉光】

1956年、山形生まれ。国際基督教大学大学院修了。小説家・近畿大学教
授。「石の来歴」で芥川賞、「東京自叙伝」で谷崎賞、最新刊の「雪の
隙」で柴田錬三郎賞を受賞。主な小説に「虫歯音楽集」「シューマンの
指」「神器 軍艦「権原」殺人事件」「グランド・ミステリー」など。い
とうせいこうとの共著に「文学の事典」「世界文学は面白い」がある。

HP <http://www.okuizumi.com/>



文芸漫談コレクション

「すばる」で好評掲載中の「文芸漫談」が
1回分ごとシングルカットされて電子版で配信中!!

詳しくはweb(ebooks.shueisha.co.jp/original/)

または 文芸漫談コレクション

で検索!

1本
100円
(税別)